

北摂でも豪雨や台風で農業被害

7月から9月にかけて、記録的な猛暑や豪雨、台風などの自然災害が各地で猛威をふるった。年々厳しくなる気象条件の中で、農業は甚大な被害を受けている。特に9月4日に上陸した台風21号は、大阪府内の8割にあたる33市町村で被害をもたらした。府内ハウス面積の約3分の1が被災し、ビニールハウスの全半壊や一部損壊による被害金額は31.6億円にのぼる。北部でも、豊能町で約600万円、茨木市で約220万円など大きな被害をもたらした。ハウスの損壊で、栽培中のトマトや葉物野菜も雨風を受けて傷んだ。7月の豪雨でも畑や田んぼが水浸しになり、能勢町では水稲も被害を受けたという。露地野菜の多い箕面市では、農作物被害が至る所で発生した。箕面市農

被害のあった箕面市内の畑。「次の作物を植えたくても、台風後も雨が続き、なかなか作業が進みませんでした」と稲垣さん。多くの農家は、1〜2日の晴れ間に一気に畑を耕して植え付けを行なったが、土壌のコンディションは良くないという。



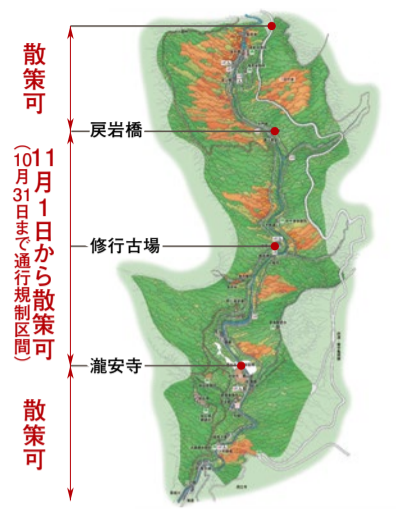
業委員会の稲垣さんは、市内でナスやキュウリ、ゴーヤなどの野菜を栽培している。9月初頭は収穫時期だったが、多くの作物が台風で傷み、栽培を中止せざるを得なくなったという。

こうした緊急の事態を受けて、農林水産省では再建や修繕に要する経費の一部助成を開始したところだ。家計への影響について北部農とみどりの総合事務所は、「秋以降、市場価格に響いてくる可能性はあります」と話す。自然災害の被害を軽減する農業対策が急がれる。

箕面大滝につながる山道の通行止めが解除

平成29年に接近した台風21号に続いて、今年も接近した台風21号が大阪各地に甚大な被害をもたらした。箕面公園は、土砂崩落と多数の倒木、また滝道の陥没によって昨年からの山道の一部通行止めを余儀なくされていたが、11月1日の午前11時に全面通行できるようになる予定だ。

紅葉の名所である箕面公園には年間200万人以上の観光客が訪れる。しかし相次ぐ台風の影響により来園者数が激減。被災後、滝上の駐車場から府道を通った園路からしか箕面大滝には行けなくなっていたが、今回の通行止め解除に伴って阪急箕面駅からも暫定的に来園者が通行できる状態となる。これから秋色が深まってくる季節に向けて、今まで以上に観光客が



増えることを期待したい。未だ一部園路には狭い箇所があるため、紅葉シーズン後に引き続き復旧工事をおこなって完全な復旧を目指す。

「MISOKA」歯ブラシがパリ展示会で受賞

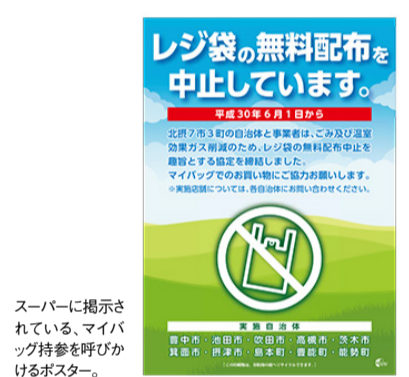
株式会社夢職人(箕面市)は、製造販売する歯ブラシ「MISOKA」を9月にパリで開催された「MAISON & OBJET PARIS」に出展し、「BEST STAND SCENOGRAPHY」を受賞した。同展示会はインテリア業界のパリコレとも称され、出展自体が難しいことでも有名。今回は、世界中から約3,000の企業や団体が出展した。その中で同賞は、4社にのみ授与される栄えある賞。6回目の出展ではじめての受賞となった。社長の辻さんは、「ヨーロッパのバイヤーの間では、すでに高級歯ブラシとして認知されつつある。今後はこの商品を使うことによっていかにヨーロッパの人たちが日々幸せになれるのか、もっと丁寧に伝えていきたい」と話す。



「MISOKA」は、全国の百貨店や東急ハンズ、ロフトなどで購入可能(取り扱い状況は異なる場合がある)。問い合わせは、株式会社夢職人072-720-7703。

北摂地区 マイバッグ持参率8割近くを達成

一部のスーパーマーケットでレジ袋無料配布の中止を実施した北摂地区の10市町は、6月のマイバッグの持参率が80%近くに達していたと発表した。取り組みに参加しているのは、イオンリテール近畿・カンパニー、イズミヤ、関西スーパーマーケット、光洋、ダイエー、阪急オアシス、平和堂、万代、ライフコーポレーションの9社。マイバッグなどの持参促進とレジ袋削減を目指す協定を2月に締結し、レジ袋無料配布の中止は6月1日以降、同地区内の110店舗で実施され、各社は1枚2〜5円でレジ袋を販売。実施前の5月には46.8%だったマイバッグの持参率は大きく向上し、6月には目標としていた80%に近い76.6%に達した。今後は、まだ協定を締結していない



スーパーに掲示されている、マイバッグ持参を呼びかけるポスター。

食品スーパーから、ドラッグストアやコンビニエンスストアへも拡大していきたい考えだ。豊中市の担当者は、「市民から一定の理解は得られていると思う。コンビニなどで無料配布をいきなり中止することは難しいため、マイバッグ持参推進として取り組みを進めていきたい」と話す。

踏切内の男性を救助市民3人に感謝状

豊中市内の踏切内で倒れている年配男性を救出したとして、市民3人に南消防署から感謝状が贈呈された。事故は、9月10日11時40分頃、遮断機が下りた島田踏切内(阪急宝塚線庄内駅近く)で起きた。男性が倒れているのを発見した仲島さんは、非常停止ボタンを押し、急行電車が緊急停止。踏切待ちをしていた児島さんと田口さんが駆けつけ、3人で男性を安全な場所へと移動。119

番通報を行い救急搬送に至った。「絶対に助けないと、思った」と仲島さん。児島さんは、「仲島さんが勇気を持って非常停止ボタンを押し、一人で救助活動をしていたので、田口さんと応援に向かった。豊中の安心安全のため、今後も地域の見守り活動を頑張りたい」と話した。



感謝状を受け取る仲島宏明さん(左)、児島政俊さん(右)。

災害用食「飲めるごはん」販売開始

JA北大阪は、缶入り穀物飲料「農協の飲めるごはん」を開発し、8月から販売を始めた。熱や水を加えず手軽に栄養と水分補給ができるため、災害発生直後の初動段階に対応できる備蓄食だ。北摂産の米や国産ハト麦や小豆を使い、アレルギー特定物質27品目不使用で、小さな子どもから高齢者まで摂取可能。これまでに、全国の自治体や民間企業、団体等で採

用されている。「避難所をはじめ、人が集まる場所どこに行っても飲めるごはんがある。そのような状況になれば嬉しい」と担当者は話す。



梅・こんぶ、ココア、シナモンの3種類。30食入り1ケース単位(8,424円)で購入できる。問い合わせはJA北大阪06-6877-5140

11月は自転車マナーアップ強化月間 ～夕暮れ時は早めのライト点灯を～

協力:大阪府警察



自転車マナーアップ強化月間ポスター

大阪府下における自転車関連事故は2018年8月末時点では、昨年同時期と比べて死者数は減少しているものの、件数と負傷者数は増加している。大阪府は全国的に見ても事故件数も多く、全交通事故に占める自転車関連事故の割合は30%を超えている。(平成29年中、発生件数及び負傷者数は全国ワースト)

毎年、夕暮れが早くなる秋～年末にかけて自転車事故が増加傾向に。相手に自分の存在を知らせるためにも、自転車に反射材を装着し、早めにライトを点灯しよう。また、日頃からライトの点灯確認などの点検・整備を行って、交通ルールを守り、事故に遭わないよう気をつけよう。

【自転車安全利用五則】

1. 自転車は、車道が原則、歩道は例外
2. 車道は左側を通行
3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
4. 安全ルールを守る
飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
夜間はライトを点灯
交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
5. 子どもはヘルメットを着用